

CK アイザン				349000	
				担当部署	
CK アイ				一般	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項			特記事項なし		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→生化学→			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		運動による CKMM の増加。 EX 一般 212 : 「臨床検査法提要改訂第 31 版,1998」			
検査受付時間		8 : 15 ~ 16 : 00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項			該当なし		
検体採取の特別なタイミング			特記事項なし		
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	他材料	10 青	分離剤		
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件			室温		
検体受入不可基準			1) 採取容器違いの検体 2) バーコードラベルの貼られていない検体 3) 量不足 4) 粘性のある検体		
保管検体の保存期間			2℃から 8℃冷蔵保存 14 日（追加検査については検査室に要問合せ）		
検査結果・報告					

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		1～7 日				
生物学的基準範囲		CK-MM 95.8～100% CK-MB 0～2.7% CK-BB 0～1.8% EX 一般 214 「タイタンジェル C K （Q G）」				
臨床判断値		該当なし				
基準値					単位	%
共通低値		共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
設定なし		設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値		高値	該当なし			
		低値	該当なし			
生理的変動要因		運動による CKMM の増加。 EX 一般 212 : 「臨床検査法提要改訂第 31 版,1998」				
臨床的意義		C K は、M（骨格筋型）と B（脳型）の 2 種類のサブユニットから成る二量体で、その組み合わせから MM，MB，BB のアイソザイムが存在する。電気泳動において、これら 3 つのアイソザイムは等電点の違いによって、陽極側から BB（C K 1），MB（C K 2），MM（C K 3）に分離される。C K の分布は、骨格筋、心筋、脳、胃、大腸及び小腸などであり、各アイソザイムは主として、BB は脳及び平滑筋に、MB は心筋に、MM は骨格筋及び心筋に存在している。急性心筋梗塞発作後の血中には C K の各アイソザイムが増加するが、梗塞後の 4～6 時間後に MB 活性の上昇が見られ、18～24 時間後にはピークに達し、72 時間後には正常に回復するという経過をたどるため、急性心筋梗塞の診断に有用である。また、種々の悪性腫瘍の際、BB、免疫グロブリンと結合したマクロ C K、ミトコンドリア C K が血中に出現することが報告されており、腫瘍マーカーとしての有用性が指摘されている。 EX 一般 214 「タイタンジェル C K （Q G）」				